

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生徒指導論(進路指導を含む) Student Guidance Theory		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)))	英語フィールドの教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
①生徒指導の理論と方法、②進路指導の理論と方法を内容の柱として、実際に生徒指導と進路指導ができるように基礎的知識とスキルを修得させる。				
授業の目標				
①生徒指導の考え方を述べられるようにする。 ②生徒指導の方法を述べられるようにする。 ③進路指導の考え方を述べられるようにする。 ④進路指導の方法を述べられるようにする。				
授業の方法				
自作プリントや黒板を使って説明する。また、テーマを決めて討論したり、ロールプレイング等を行う。実践事例に即して生徒指導と進路指導の方法を考えていく。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育実習の場で生徒指導や進路指導を行って、最低限の効果を上げられる。 (2) 自己の生徒指導や進路指導の実践を客観的に反省できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、生徒指導と聞いて思い出すことは何か?			
第2回目	1、生徒指導の原理 (1) 生徒指導とは			
第3回目	(2) 生徒指導の原理・原則(自己実現への援助等)			
第4回目	(2) 生徒指導の原理・原則(主体的な問題解決への援助等)			
第5回目	(3) 生徒指導の現代的課題			
第6回目	(4) 生徒指導の分野			

第7回目	(5) 生徒指導の方法
第8回目	(6) 生徒指導のための計画立案
第9回目	(7) 進路指導(キャリア教育)の理論および方法
第10回目	指導案の作り方、レポート(提出は第14回目の授業日) 2、代表的生徒指導論の吟味(1) J. デューイ
第11回目	(2) ヘルバルト
第12回目	(3) マカレンコ
第13回目	(4) ロジャース
第14回目	(5) 対話による生徒指導(実践事例の検討)
第15回目	(6) エリクソン 3、生徒指導の案の発表と講評

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	70%	生徒指導の指導案を作って提出する。最高水準としては、選択したテーマについて多面的に考えた上で、評価方法を含む指導計画を綿密に立てていること、オリジナルな発想があること等を評価基準とする。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

なし。適宜自作プリントを配布する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。積極的に質問することを望む。